

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 30 年度

事業所番号	2770300867		
法人名	フラッシュ日乃出産業株式会社		
事業所名	グループホーム日乃出(3F)		
所在地	大阪府寝屋川市宇谷町10-1		
自己評価作成日	平成 31年 2月 3日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JizyosyoCd=2770300867-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人を中心とした規則にはめないケア。本人の目線で、日々より良い生活が出来るように取り組んでいる。四季折々の花が楽しめる緑豊かな日本庭園、自然に触れ合う花作り、森林浴、家庭菜園と様々な場面で心地よい時間を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フラッシュ日乃出産業株式会社が運営する2ユニットのグループホームです。設立後18年、市内初のグループホームとして先駆的な役割を果たしてきました。四季折々の花が楽しめる緑豊かな日本庭園を有し、家庭菜園では季節の野菜や果物を育て収穫を楽しんでいます。気候の良い時期には庭園の花を愛で、池の鯉と戯れ、森林浴を楽しむことができます。利用者は清潔に整えられた居室、明るく開放的なリビングで自由にゆったりと過ごしています。年間を通じては、初詣、お花見、花火大会、クリスマス会、もちつきなどのレクリエーションを楽しんでいます。2か月に1回発行する情報誌「けやき」やインターネットホームページを通じて、家族等にタイムリーな情報を提供しています。職員は優しく親切で、利用者が「笑顔の絶えない暮らし」を続けられるように取り組んでいます。ホームでは提携医師の協力を得て24時間医療連携支援を行い、利用者の体調管理と終末期支援にも取り組んでいます。管理者がこれまでの豊かな運営経験を生かし、地域や行政とも連携して、職員と共にきめ細やかな利用者支援に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を掲げ、各会議時・朝礼時に唱和している。	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」をホームの理念としています。さらに法人理念では「地域における一市民として当事者が当たり前のように生活していけるよう、地域福祉による支援を通じてノーマライゼーション社会の実現を目指す」として、地域密着型サービスの意義をふまえた取り組みをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩コースは、地域公園を中心としている。小学校の運動会イベントに応援メッセージを届けていた。子供 110 番の設置。	ホーム周辺は高層マンションや物流倉庫などが立ち並び、一般の民家は少ない状況ですが、すぐ近くに公園や学校があり、スーパーやレストランも歩いて行けるなど生活環境は整っています。気候の良い時期には外に出て、公園やスーパー等に出かけ、地域の人々と出会って挨拶を交わすなどしています。また、小学校の運動会等に招待されますが、利用者の都合でイベントに参加できない場合にはホームから応援メッセージを届けるなどしています。ホームを「子ども110番の家」として登録し、地域との関係を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	電話等での相談に応じている(入所希望者に限らない)。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者家族・近隣施設職員・包括支援センターを招き会議を開いている。意見や情報の交換を行い会議録も回覧している。ご家族にも配布を行い、情報の共有を図っている。	運営推進会議は運営要綱に沿って、2か月に1回、年6回の開催をしています。構成メンバーは利用者家族、地域包括支援センター職員・近隣施設職員、ホーム職員としています。会議では利用者の状況、行事予定、新しい情報などを報告しています。インフルエンザ等感染症の予防、虐待防止、ホームでの事故防止、避難訓練、2019年度から始まる介護施設での優良認証制度(人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度)、消費税アップと影響、近隣施設の行事、オムツの購入方法、運営推進会議の家族参加について等を議題とし、活発に意見交換をしています。会議記録は家族に送付して共有し、出された意見や助言等はホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>月一度は広報誌を持って行く事により情報交換・コミュニケーションをとっている。府にも開設当初と同様に広報誌を届けている。何かあれば、相談し都度解決している。</p>	<p>市担当課には月1回は出向いてホームの広報誌を届け、情報交換をしています。必要時には個別に相談を行い、何かあれば行政と歩調を合わせた運営を進めています。管理者は市から要請を受けて認知症高齢者介護講習会の講師として出向き、地域貢献に努めています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>会議等で身体拘束について考える時間を作っている。一時的に拘束が必要な場合には家族にも現状を説明し、理解を頂いた上で承諾書をもっている。定期的に必要性を検討し継続するかどうか決めている。</p>	<p>「身体拘束等に関する施設の理念・方針」を明示し、「身体拘束ゼロ宣言」をしています。利用者の生命や身体を保護する為に緊急やむを得ず一時的に行動を制限する場合には、利用者・家族に説明をして承諾書もらい、必要性について定期的に見直すことにしています。職員は身体拘束ゼロ・高齢者虐待防止等の研修に参加し、学んだことを職員間で共有し実施しています。ホーム玄関は防犯上、施錠していますが、利用者に外出の意向があれば職員が付き添い支援をしています。</p>	<p>利用者の安全性を確保しながら、「鍵をかけないケア」について、取り組むことが求められます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議でニュースや新聞等の情報を引用し日々を振り返り、お互いに気を付けるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば外部研修に参加する。必要な方は家族間の問題であると考え、関与しない。活用を否定もしない。必要な支援は当然行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に十分説明し理解を得られている。変更時は内容を説明し、署名捺印をもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に耳を傾け意見を聞いている。面会簿にも家族からの意見を記入出来るようにしている。毎運営推進会議でも意見要望等聞く時間を作っている。</p>	<p>家族等の来訪時には、職員から声かけをして要望や意見を出してもらっています。面会簿にも家族が意見等を記入できるようにして、家族の意見をホーム運営に反映しています。運営推進会議にはできるだけ多くの家族に参加してもらおうよう呼びかけています。ユニット毎に写真入りの情報誌「けやき」を発行し、2か月に1回家族に送付しています。インターネットホームページを毎月更新し、家族等がタイムリーに行事等の様子を閲覧できるようにしています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議、合同会議を毎月行い意見交換の時間をとっている。</p>	<p>管理者は日頃から職員と対話して意見を聴取したり、提案を受けたりしています。また、フロア会議や合同会議を開催して意見交換を行い、業務に活かせるようにしています。職員の資格取得のための費用を援助し、外部研修にも派遣して職員の育成に努めています。また、コンサート費用等の補助、誕生日ギフト券の支給など、職員への支援制度も設けています。</p>	<p>ホームでは職員一人ひとりがグループホームの役割を理解し、利用者の状況に沿った支援ができるよう取り組んでいます。例えば「その人らしい生活」とはどのようなことか、職員が自分で考え具体化できるように、簡単でわかりやすい「情報シート」等を検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	資格試験受講料 50%施設負担あり。コンサート等代金補助あり。誕生日にギフト券の支給あり。		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	機会があれば外部研修等参加させている。フロア会議、合同会議で勉強会を行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	基本的な考え方が違う為出来ない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	必要があれば家族とは別に面接を行い本氏の声を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に十分な時間を取り話し合うようにしている。必要があれば電話相談にも応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所やデイサービス等の利用も含め、何が本氏にとっていいのか検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の型にはめず本氏がその人らしく表現出来るよう一人一人が出来る事を尊重し支援を行っている。利用者・職員共に笑顔が見られる事を重要点としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見、芋堀りなどの行事への参加。面会・外出・外泊等、家族との絆が切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人等の面会も家族の時と変わらず行っている。本氏や家族の希望は出来る限り協力するようにしている。墓参りの要望にも答えている。</p>	<p>友人、知人の来訪時にはゆっくり話ができるように湯茶の接待をしています。家族と協力して、行きつけの美容室を利用したり、入居前に住んでいた家に外泊したり、墓参りをしたり、外食をしたり、馴染みの場所へ出かける支援をしています。ホームに公衆電話を設置しており、利用者の希望があれば家族等に電話をかける際の支援をしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い利用者には談話の場を作ったり、会話が得意でない利用者には職員が会話を促したり問題発生時には解決に取り組むようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>継続的関りは家族の問題と捉えている。但し、介護者が高齢で他に頼る者がいないとの事で、契約後も同じように入院先に出向き髭剃りの充電を行う支援は続けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の希望を捉えるようにしている。可能な事は生活に反映させている。	職員は日常的な会話の中で利用者一人ひとりの思いや意向を確認しながら支援をしています。利用者が言葉で表せない場合には表情やそぶりで確認し、困難な場合には家族の協力を得たりして意向確認をしています。管理者と職員は利用者と毎日対話することで要望を聴取したり、表情の変化で意向を確認したり、体調を把握したりして支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少期～年代別にあつた事を記入してもらっている。これらを基にコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活を記録に残し、フロア会議・カンファレンスにより毎月見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心にアセスメント・モニタリングを行い、月1回のカンファレンスで意見交換をしている。結果を介護計画に反映させている。家族に対しては定期的に説明を行い理解を得ている。日々の記録にプラス面のコメントも記入し、家族にも伝えている。</p>	<p>介護計画書は本人や家族の意向を確認し、毎月カンファレンスを開いて作成しています。必要時にはカンファレンスに家族も参加してもらうなどしています。介護計画書は職員間で共有し、実施状況を記録に残しています。介護計画書作成時や見直し時には細やかにアセスメントを行い、毎月モニタリングをして利用者の変化を確認し、状況に沿った支援をしています。利用者・家族に介護計画書の説明をして同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護・看護・受診・服薬等の記録に加え、数々の情報を連絡帳・回覧簿で共有している。毎月の会議で意見交換しケアに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りニーズに答えるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市、行政の意識が低いように考える。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の内科往診・三ヶ月毎の歯科往診を行っている。希望があれば入所前の医師の往診も変わらず行っている。専門医の受診等は基本家族にお願いしているが緊急な時や家族だけでは困難な時は支援を行っている。	利用者・家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは利用者の希望に沿って月1回の内科医師往診、3か月に1回の歯科医師往診を受けることができます。医療機関受診についてはホーム職員が同伴しますが、家族の都合が付く場合には同席してもらうようになっています。職員が付き添い支援を行った場合には、速やかに家族に結果を報告し、状況を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師が中心となり職員全員で利用者の体調を把握するようにしている。往診 Dr.とは常に連絡取れるようにしている。緊急時には医師の指示を受けすぐ対応できるよう体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>管理者が中心となり対応している。入院時にはマメに面会に行き状態の把握に努めている。変化があれば家族に連絡を入れ、希望があれば医師の病状説明にも立ち会うようにしている。入院先の看護師に声を掛け、身の回りの雑用も支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「出来る事、出来ない事」は基本的に決めていて、家族には契約時に説明している。職員にもその都度方針を説明し共有出来ている。</p>	<p>終末期の支援については入居契約時に、ホームで「できる事・できない事」を説明して意向を確認しています。利用者が重度化した場合には終末期支援の意向に変更はないか等を確認して同意を得ています。終末期をホームで支援する場合がありますが、結果的には家族の意向から入院することも多い状況です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>フロア会議・合同会議で勉強会や実践講習を行っている。いつでも見られるようにマニュアルも備えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回避難訓練を行っている。月一回は各フロアにて避難時の言動を確認している。近隣の方へも非常時に強力して頂けるよう話し合っている。夜間の連絡体制も整えている。スプリンクラーも設置している。</p>	<p>ホームでは消防署と連携して年に2回、火災や地震、水害等を想定した災害時避難訓練を実施しています。さらに、毎月1回、ユニット毎に非常時の対応について確認を行い、ミニ避難訓練をしています。消防署への通報、消火器等の確認、近隣工場等への協力要請、備蓄確認、夜間連絡体制の確認等を行い、緊急時に落ち着いて対応できるようにしています。居室入口に蛍光板を設置して、利用者の避難後はテープをはがすと「避難済」となり、容易に避難確認ができるようにしています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>会議等でも重ねてプライバシーの保護について注意している。個人情報の取り扱いにも留意し守秘義務について職員は十分理解出来ている。</p>	<p>管理者は、利用者を人生の先輩として敬う姿勢を職員が持てるように、育成しています。また、職員が接遇について学べるように研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう取り組んでいます。また、個人情報保護については職員の就業規則に「秘密を保持する義務」として明記し、契約書を交わしています。個人情報を記載した書類やデータ等は厳重に保管するように職員間で徹底しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の会話の中で、その人らしさが引き出されるように努めている。レクリエーション等は「やりたい事」を選んでもらっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>可能な限り本氏のペースを大切に支援を行っている。強要や無理強いはないようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>服装に関しては、本氏の好みに合わせて衣類を選んだり、選んでもらったりしている。理美容に関しては家族の理解を得て当施設内にて訪問利用で対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を利用者の前で作り、音や匂いを楽しんでもらっている。会話のきっかけ作りにもなっている。職員はゆっくりとフロアを回りなるべく自分で摂取出来るよう配置を変えたり、手を動かすよう促したり、空の皿を下げて認識しやすいようにしたりしている。	朝食、昼食は業者から食材を届けてもらい、ホームで作っています。夕食はホームでご飯を炊き、汁物を作って、副食にはチルド食品を活用しています。利用者は片付けをしたり、テーブルを拭いたり、得意なことで力を発揮しています。季節の行事では、利用者の希望に沿った献立を作り、皆で手作りを楽しみ、おやつ作りにも取り組んでいます。年間を通じて、ホームの家庭菜園で実った季節の野菜や果物、芋や栗等を食材として調理し皆で楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、その人に合わせた形態にて提供することにより完食してもらう事を目指している。水分補給については糖分・塩分に気を付けた上で好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・月一回の口腔チェックを行い記録に残している。毎日の義歯洗浄を行い歯科往診も三ヶ月に一回行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンを把握するようにしている。パット類は使用するがトイレでの排泄が出来るように心掛けている。	職員は排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄リズムや習慣を細やかに把握して自立支援に活かしています。職員は一日を通して可能な限りトイレでの排泄を支援していますが、夜間等にはポータブルトイレを活用するなど安全に配慮した支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎日のラジオ体操・歩行運動、便秘の解消に繋がる食事内容にするなど予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせゆっくりとした入浴に努めている。気分がのらない時は無理強いせず翌日に変更している。夜間の入浴は対応していない。	入浴は週2～3回行っています。重度の利用者は職員が2人で介助しています。体調に合わせてシャワー浴や足浴も取り入れています。季節にはゆず湯を行い、日常は入浴剤を使用して利用者がゆっくりと楽しんで入浴できるように支援しています。職員が行う頭皮マッサージも利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を記録に残している。不眠等がある場合には看護師と相談し、さらにフロア会議・カンファレンスで検討し安眠できるように支援方法を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルを作り全職員が閲覧出来るようにしている。服薬の変更時には連絡帳にも情報を記入し、すぐに把握出来るようにしている。変更後の体調の変化には特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の小物作りや洗濯畳み、壁に飾る塗り絵等喜んで参加してもらっている。希望があれば喫煙も職員の見守りの中楽しんでもらえる。気候が良い時に限るが、散歩(車椅子使用もあり)にも出掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩コースは地域の公園周りにしている。施設内にも池や庭園があり、散歩気分を味わえる他、テーブルを出し、お茶やお菓子を並べれば、日光浴・ピクニックと様々に楽しめる。お正月には成田山初詣を行っている。	天気の良い日にはホーム周辺や近くの公園を散歩して、買い物にも出かけています。ホーム前の広い庭に出て、青空の下で森林浴をしながら談笑することもあります。年間行事として初詣や花見、紅葉がり等に家族も誘って出かけています。畑で育てた芋を掘る際等にも家族を誘って、楽しいひと時を過ごします。みんなで出かけるドライブも利用者の楽しみ事です。家族の協力を得ながら自宅に帰る利用者や、美容院、買い物、外食に出かける利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望者にはお金を所有してもらっており、公衆電話や家族への小遣いに使われる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば公衆電話等使用対応している。家族の要望により再三の求めには応じない場合もある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた壁画や飾りつけを一緒に作り飾っており、殺風景にならないよう工夫している。利用者が間違いやすい扉には表示をし、分かりやすくしている。</p>	<p>利用者が集うリビングはゆったりとして明るい雰囲気です。広い廊下の壁面には季節を感じさせる貼り絵やおひなさまの飾りがあり、利用者に春の到来を知らせています。リビングの一角には公衆電話があり、利用者が家族等に電話をすることができます。電話のそばには大きなぬいぐるみが並んでおり、利用者が愛用しているものもあります。美しい前庭が眺められる窓際には長椅子を用意して、ゆっくり休めるようにしています。利用者は居心地の良い場所で落ち着いて過ごしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル以外にソファを置き利用者が団らん出来るようにしている。気の合った同士が、話しやすいように席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(家具・小型冷蔵庫・テレビ・ラジオ等)の持ち込みに対応している。利用者の希望はすべて家族に伝えるようにしている。施設の方でも家族との写真を飾る等している。	居室はどの部屋も明るく、大きな窓があります。窓からは町の風景やホームの美しい庭園が眺められ、季節の変化が感じられます。各居室は個性的で、使い慣れた家具や仏壇、位牌が置かれた居室、家族写真やぬいぐるみ、マスコットや折り紙で飾られた居室、ギターや大きな姿見のある居室等、利用者は好みの家具を置いて、ゆったりと落ち着いて過ごしています。職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、清潔で居心地の良い居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり等で対応している。居室には表札、トイレには目印をつけている。		